

## 平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本年度に実施された全国学力・学習状況調査の結果についてお知らせします。

### 1 全国学力・学習状況調査概要

本調査は、生徒の学力や学習状況を把握・分析し教育指導の充実や学習状況の改善をねらいとし、国語・数学・理科の3教科で、全国の中学校3年生を対象として実施されました。

調査内容は、(1)「教科に関する調査」と(2)「生活習慣や学習環境等に関する調査」の大きく2つに分けられています。

(1)「教科に関する調査」は、以下の問題により実施しました。

- ・国語A、数学A：基礎的・基本的な知識・技能が身につけているかどうかを見る問題
- ・国語B、数学B：基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかを見る問題
- ・理科：基礎的・基本的な知識・技能の定着とそれらを活用できるかどうかを見る問題

(2)「生活習慣や学習環境等に関する調査」は普段の学校生活や家庭での生活習慣、家庭学習の状況、規範意識等について質問紙による調査を実施しました。

### 2 本校の状況

(1) 教科に関する調査

国語A、国語B、数学A、数学B、理科

いずれにおいても、平均正答率が全国・県平均を上回っている。

#### 【国語】

「伝えたい事実を明確に書く」や漢字を「書く」に関して、正答率が全国・県平均を上回っています。これは説明文の要点まとめを授業で行っていることや漢字の小テストの取り組みが成果として表れていると考えられます。一方で、文章構成を考えたり、漢字を読んだり、品詞を識別したりする設問について、平均をやや下回っていることがわかりました。

#### 【数学】

「基本的な計算問題」の正答率が全国・県平均を上回っています。これは「学びの時間」における毎日の計算練習や1年を通じた家庭学習ノートの提出の成果であると考えられます。一方で図形分野では、問題によっては正答率が平均をやや下回っていることがあり、苦手としていたことがわかりました。

## 【理科】

基本的な知識を問う問題や実験・観察の技能に関する問題の正答率が全国・県平均を上回っています。領域別に見ると化学・生物・地学の領域ではよい結果となりました。実験・観察を中心とした授業の成果であると考えられます。物理的領域においては、他領域と比べて正答率が低いということがわかりました。

### (2) 「生活習慣や学習環境等に関する調査」

#### ◎全国・県より上回っていた調査項目

- ・ものごとをやり遂げてうれしかったことがある。
- ・読書は好き。
- ・学校に行くのは楽しい。
- ・学校の規則を守っている。

#### ●全国・県より課題があった調査項目

- ・携帯電話やスマートフォンを1日当たりどれくらいの時間、使用しているか。
- ・学校の授業の予習・復習をしているか。
- ・授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いか。

\*携帯電話やスマートフォンの使用時間が短いまたは持っていない生徒ほど平均正答率が高く、使用時間が長い生徒ほど平均正答率が低い傾向にあります。

\*予習・復習をしていない生徒が多く、平均正答率が低い傾向にあります。

\*分からないことをすぐに解決しようとしていない状況があることがわかりました。

### 3 今後の学校の指導に生かしたいこと

国語では言語活動の視点を取り入れながら、自分の考えを発表する機会や人の意見を聞く場面を設定し、文章構成を考え、話す・聞く力の育成、数学では、本校の教育課程の特色としている「学びの時間」を継続し、さらなる基本計算力の向上、理科では引き続き実験（観察）の授業を多く取り入れ、予想→実験（観察）→結果→考察を行う中で問題解決力の育成を図っていきます。また、少人数指導（T・T、習熟度別）の工夫・充実や「放課後学びの時間」の実施により、質問しやすい学習環境を整え支援していきます。総合的な学習の時間においては、目的を明確にし、生徒一人ひとりが課題意識をもって取り組めるようにしていきます。

なお、本調査から検証できる学力は特定の一部であり、本校の教育活動の一側面であることをご理解くださるようお願い申し上げます。